令和５(2023)年度 第２回 下都賀地区臨時採用教員研修会を開催しました

日　時：令和５(2023)年８月２３日（水）１３：００～１６：００
会　場：栃木市大平文化会館・大平公民館・大平勤労青少年ホーム
参加者：（１）栃木県教育委員会採用の臨時採用教員及び非常勤講師の希望者
　　（２）市町教育委員会採用の期限付き教員及び非常勤講師の希望者

１　研修内容について

（１）目的　①学習指導、児童・生徒指導、学級経営等について基礎的な指導力の向上を図り、自信と希望をもって日々の教育活動に取り組めるようにする。
②職務に専念することなど、教職員としての使命を自覚し、自己啓発に努めようとする態度を養う。

（２）内容　〇諸連絡　①「臨時採用教員の任用について」
②「本日の研修の進め方について」
〇学習指導に関する講座（７講座）
〇児童・生徒指導に関する講座（７講座）

２　本研修で確認したこと

（１）臨時採用教員の任用について
〇令和６年度臨時的任用希望調査（今後の予定）等について
〇教育公務員としての心構え・服務について
① 体罰及び言葉による暴力の禁止
② 交通法規の遵守
③ わいせつ行為、ハラスメントの禁止
④ 個人情報漏洩・流出の防止
⑤ 教育公務員としての身だしなみ（服装、髪型、アクセサリー等）
⑥ SNS 等による職務上知り得た情報の拡散・SNS 等を利用した出会い

（２）本日の研修の進め方について
〇本研修の目的の確認
〇主体的に研修に参加するための心構え

３　本研修で学んだこと（参加者が記入した〈研修の振り返り〉より）

【第一部　学習指導に関する講座】

〇授業の単元計画を作る際は、まず単元のゴールを意識していくことが大切であると学びました。単元のゴール（その単元を通して子どもに身に付けさせたい資質・能力）を明確にすることで、教師はゴールにたどり着くために、どのような学習活動を積み重ねていけばよいか明確になります。更に、子どもたちにとっても、授業や単元の見通しが持てるようになるため、振り返りを行いながら、学びの調整も行えるようになると感じました。

〇まず、授業をするに当たって、「学習指導要領解説」や「下都賀地区学校教育の重点」、文部科学省の「各教科等の指導における ICT の効果的な活用に関する参考資料」等をよく読むことが大切だと思いました。また、「めあて」の示し方について教えていただきました。子どもたちと本時のねらいを一緒に作ったり、導入を工夫したりすることも大切だと分かりました。

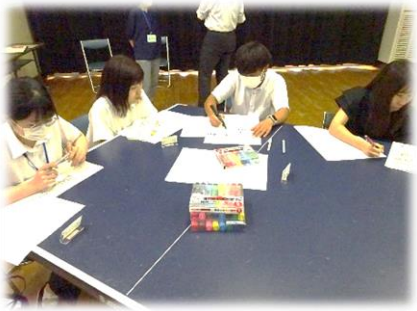
〇今まで理科の授業の基本について知ることがなかったので、よい確認の機会となりました。「実験は楽しい」という気持ちだけで終わらないように、単元の見通しを持ったり、事前の準備を念入りに行ったりすることが大切だと学びました。

〇体育の授業とスポーツの違いに目を向けるよい機会となりました。好き・嫌い、得意・苦手に着目すると、その子にはどんなアプローチが適切なのか、先生方の実体験や子どもの姿から話し合うことができました。

〇今まで外国語の言語活動といえば教科書の speaking の設定をそのまま使い、活動のポイントを深く考えていませんでした。今回、言語活動のポイントを教えていただき、特に「本物である＝ウソのコミュニケーションはとらない」というポイントに感銘を受けました。早速２学期からの授業に取り入れさせていただきます。

〇実際に子どもたちの立場になって道徳の授業を受け、その後に講義を聞いたことで、発問についての考えを広げることができました。また、発問を考えるに当たり、自分事として子どもたちに問題を捉えさせること、様々な立場に立って考えたり、他の人の意見を聞いたりすることで、多面的、多角的に考えることができるようにすることが大切であると学びました。そのために、導入や問い返しなどの工夫も必要だと分かりました。

〇学力向上につながる取組として、「ねらいの提示」「机間指導」「発表」「まとめ」「振り返り」の５つの場面について考えました。どれも教科を問わず行われますが、どの場面についても子どもの視点で考えることが大切だと思いました。また、子どもにやる気を起こさせ、不安にさせない教師の言葉選びがとても重要であると感じました。



【第二部　児童・生徒指導に関する講座】

〇学級目標をつくり掲示して、それで満足していました。クラス全体の目標ではあるが、子ども一人一人の目標にもなることから、定期的な振り返りや確認が必要であると思いました。また、目標を決める際には、子どもの思いだけでなく、教師の願いも伝えた上で、子どもの実態に合ったものを決めていきたいです。

〇実際に他の先生方とミニエクササイズを通して、場が和やかになり、相手のことをより知るという経験ができました。夏休み明け、子どもたちにも機会を与え、仲をぐっと深めるきっかけにしたいと思いました。また、相手意識を持たせるだけでなく、自分自身を改めて見つめる機会にもなると感じました。

〇学校には様々な立場の先生がいるため、役割分担をしながらチームで動いていくことが大切であると感じました。事例検討を行ったとき、学級担任や専科教員などが普段取り組んでいることや求められていることを具体的にイメージすることができなかったため、今後視野を広くして、周りの先生のことを理解していけるよう努めていきたいと思いました。自分の強みを生かしながら連携を図っていきたいです。

〇本日の講義では「観察」を大切にすることで、子どもの様子を理解し、指導に活かせると学びました。観察や声かけは日頃から実践していましたが、なんとなく行っていたように思います。未然防止、早期発見のために何をするべきなのか、感覚ではなく、知識として児童・生徒指導を身に付けたいです。

〇「いじめ」について改めて考えることができました。まずはいじめを生まない環境づくりが大切であり、私たち教師は、子どもたちの変化に気付き、耳を傾けることが必要だと感じました。「この先生になら話したい」と思われるような教師になれるよう、子どもたちに寄り添いながら、関わっていきたいと考えました。

〇子どもに対して、全体の見通しが明確化された授業や、簡潔に分かりやすく伝えるといったことができていないと実感しました。相手に伝わる具体的な表現や、適切な言葉を使ってコミュニケーションを図りたいと思いました。また、「自分が」こんな授業をしたい、ということよりも、「子どもたちが」どのように感じるか、どう関わり合うかを考えていきたいです。

〇人権を考えることから始まりましたが、人権教育と児童・生徒指導は大きく関係していることが分かりました。人権教育を推進していくには、基底的指導が土台として何より大切であることも学びました。子どもたちには、安全・安心な風土を整え、自らは人権感覚を磨いていきたいです。